

昭和戦前から戦後の日本での女性宣教師の教育活動の 継続性と歴史的意義に関する研究

(2021年度学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)に採択)

科学研究費補助金（学術研究助成基金助成金）が
交付された研究を紹介します。



メディアコミュニケーション学部
こどもコミュニケーション学科

熊田凡子 准教授

この研究は、私がこれまで携わってきた近代日本の幼児教育の実践史研究から継続するもので、博士学位論文「保育実態史から見た日本におけるキリスト教保育思想の展開—立花富、南信子及びアイリン・ライザーの活動を中心

に—」（金沢大学大学院人間社会環境研究科、2020年9月）で今後の課題にしているものです。

近代日本における幼児教育史研究では、思想・制度史や実践史の分野で数々の知見が蓄積されています。しかし、いずれの研究でも、その根底にある教育の本質に関する通史的考察は不十分なところがあります。

日本最古の官立幼稚園は、よく知られている東京女子師範学校附属幼稚園、現在のお茶の水女子大学附属幼稚園のことと、日本の幼稚園教育の源流では、この官立幼稚園と私立のキリスト教主義幼稚園の2系統の働き（保姆養成も含む）によるものとして理解されています。ところが、この官立と私

立の幼児教育を支える教育観や人間観においては、いずれも女性宣教師らのキリスト教教育活動が影響しています。

また、女性宣教師の教育活動を支えた精神は、日本人保育者らの実践によつて保たれ、歴史を刻んできました。

以上のこと踏まえて、この研究では、近代日本の女子教育及び幼児教育の創設発展に深く関与してきたアメリカ・プロテスタント系女性宣教師の教育活動が、どのような教育観・人間観を保ち、日本の教育界に影響を与えたのか、女性宣教師らの継続的に行つた活動の教育的意義を明らかにします。研究では、日本と海外に所蔵の史料（報告書・手記・通信記録等）調査

は、キリスト教保育の領域だけで継続してきたのではなく、日本の幼児教育充実のために先駆的な取り組みを展開させきました。

しかし、明治・大正・昭和戦前、戦時中は一時断たれる時期はあるものの戦後いち早く再来日し幼児教育及び保育者養成校をはじめとする学校復興に尽力した、女性宣教師らの教育的意義について、日本の教育史の中では述べられています。

私は、このような新たな視点を指摘においては、いずれも女性宣教師らのキリスト教教育活動が影響しています。

また、女性宣教師の教育活動を支えた精神は、日本人保育者らの実践によつて保たれ、歴史を刻んできました。

以上のこと踏まえて、この研究では、近代日本の女子教育及び幼児教育の創設発展に深く関与してきたアメリカ・プロテスタント系女性宣教師の教育活動が、どのような教育観・人間観を保ち、日本の教育界に影響を与えたのか、女性宣教師らの継続的に行つた活動の教育的意義を明らかにします。研究では、日本と海外に所蔵の史料（報告書・手記・通信記録等）調査

から学んだ日本人保育者の記録などの調査・分析もします。史料に基づく研究ですが、科研費の「教育学関連」の分野で採択しましたので、日本の教育史に新たな通史的側面を加えたいと考えています。